

海の安全を守る仕事「海上保安官」。加古川海上保安署でも昼夜を問わずパトロールが行われ、安心安全な海が守られています。今月は馬野署長に日頃の活動などについてお話を伺いました。

マナーを守って海を楽しんで

目指したきっかけは海洋文学

この仕事に就いたきっかけは、海洋文学を読み海の仕事に携わりたいと思ったことから、この仕事は夢であった船にも乗れ、さらに海の治安と人命を守るという非常にやりがいのある仕事です。

加古川での勤務は初めてとなりますが、当地は工業だけでなく海苔養殖を

始めとする水産業も盛んな地域です。当署は日頃から巡視艇「まやかぜ」による海難事故や犯罪・環境保全のパトロールを行うなど、播磨灘の安全を守るため12名の署員が一丸となって取り組んでいます。

また昨年は、市内のいくつかのことも園等で園児・保護者らを対象に安全教室を開催しました。子供には「一人で海に近づかない」、大人には「子供から目を離さない」ということやライフジャケットの着用などを伝え、あわせて海洋プラスチックゴミなど環境問題についても学んでいただきました。

情報入手をしっかりと

マリネレジャーは気持ち開放的になり安全に対する配慮が疎かになりがちです。海や川で遊ぶ時は、もしもに備えて「自己救命策3つの基本」を守ってください。「ライフジャケットの着用」「（水没しないよう防水ケースに入れた）携帯電話の携行」「118番の活用」です。

特に子供の動きは予測できませんので、子供用ライフジャケットを必ず着用させましょう。

また事前に情報をしっかりと入手し

ておくようにしてください。最近ではプレジャーボートによる海苔網への乗り上げやボート同士の衝突事故などがニュースになりましたが、乗り上げ事故などは養殖施設の場所や時期を把握していれば、事故は避けられたと思われます。海上保安庁では沿岸域情報提供システム「海の安全情報」をホームページ上に開設しており、ここでは気象状況のほか緊急情報や工事・行事による交通規制状況などの海上安全情報を提供しています。また航路標識に設置したライブカメラの動画・画像なども見ることができですので、是非とも活用していただきたいと思います。また、日頃からの船体メンテナンス、出航前には燃料の量やバッテリーの点検などもしっかりと行ってください。

大切な命！自分で守る

レジャーシーズンを迎え、海水浴のほか、防波堤での釣りや海・川沿いでBBQを楽しむ人も増えてきます。

「まさか自分が」という油断が大きな事故を招きます。自分の命は自分で守るといふ心構えで、しっかりと安全対策を講じ、ルールとマナーを守って身近な海を楽しんでください。



海上保安庁 第5管区海上本部 姫路海上保安部
加古川海上保安署長 ^{うまの}馬野 ^{ともひこ}智彦 さん